

磐城時報

第九十期
編輯人 岡田弘成
印刷所 磐城印刷所
發行所 磐城印刷所
電話 二二二
廣告料 一行十文字一月金五元
日刊(日曜日)休刊

傾城トンネル 根本から改修か

姑息な修理では間にあはぬ 工費百三十萬圓

常磐線湯本、經間に於ける傾城間當りは實に四千七百圓に達すトンネルが最近また一處裂れること。

平署犯罪件數

平署管内本年一月から六月までの犯罪總數は九百四十八件で昨年同期に比し約百二十件の増加で一ヶ月平均にすると百五十三件一日平均五件の割合である。そのうち一番多いのは窃盜の三師の講演がある。

米共同販賣による 利益實に三千六百圓

石城郡に於ける農民は最近非常江栗星秀吉長男正直(二四)は過中を中の作駐在所の穂積巡査が原因であらうといはれてゐる。

農産品評會

磐崎村に於ける農事實行組合長 養蠶同業組合役員其他の役員協議會は二十三日午前九時から同村役場で行ひ午後一時から同村小學校で神尾、大山、成田各枝師の講演がある。

平地方の豪雨 浸水家屋百數十戸

一坪降雨量一石八斗三升

十七日夜から降り出した石城地は排水し切れず、一丁目、田町方の雨は近來にない豪雨で神谷の一部、細屋町、古鍛冶町、仲村農事試験場を調査した處によつて、農村方面では昨午の午後三時半頃自宅附近で兄弘ち溺死した。

苗代品評會

上遠野、入遠野兩村聯合苗代品評會褒賞授與式は二十四日午前九時から同村小學校で行ひ終つて大田枝師の農事講演がある。

小學生が小刀で 同僚の顔を刺す

些細な口論が原因

江名町大字長崎字川端留次郎二をゆるされた一方被害者榮吉は男江名小學校六年級猪狩令次(十急を聞いて家人が現場にかけつた四假名)は十七日午前七時頃登校中の作久保田醫院にかつぎ込校の途中突然懐中から小刀を出し急手當を受けたが傷は余病して同じく登校中の同字松吉二の併發なき限り二週間を以て全男吉田榮吉(十五)の顔面に斬り治の見込である。因に被害者つけ左耳下腹部に長さ二寸深さは温和な兒童で級長をつとめを骨膜に達する重傷を負はせてそり友達間の氣受もよいがその前の場より逃走その儘登校せし行前日加害者些細の事から喧嘩衛搜索の結果附近山林内に潜伏をさせた事があるといふからそれが原因であらうといはれてゐる。

平職業紹介所が 信用保険を實施

雇主は安心して使へる

平町職業紹介所では來る八月一近くビラ一萬枚を印刷し同町及入遠野兩村聯合苗代品評會褒賞授與式は二十四日午前九時から同村小學校で行ひ終つて大田枝師の農事講演がある。

預金の賣買に應じます

取扱ひは親切迅速

平町仲田町 株式會社 電話四六五

警官告訴問題 結局不起訴か

去る十日平町平劇場に於ける警銀預金者大會の檢束問題について辯護士山野邊義政、同安藤琢磨兩氏は傷害瀆職罪で、町會議員吉田五平氏は暴行罪で何れも平署員を相手取り平檢事局に告訴を提起したので窪田檢事は右三氏の外参考人として十數名を取調べ中であるが結局證據不十分として不起訴になるらしい。

溜池で溺る

豊間村大字豊間神前仁左衛門孫義雄長女橋本英子(三三)は十五日午後三時半頃自宅附近で兄弘ち溺死した。

古河在郷 軍人總會

好問村古河炭礦在郷軍人分會では二十二日午後二時から小館俱樂部に於て總會を開き福島聯隊區川波中佐、下野分會長の講演がある。

四倉市場 開場繰上げ

石城販賣利用組合四倉兩市場は八月三十一日から秋藪取引のため開場する豫定であつたが大浦大野、草野各村方面の秋藪は八月二十四五日頃から出廻り初めのため各村養蠶同業組合長からの陳情もあり組合では十八日役員會を開いて二十七日から開場する事にした。

自殺者は 四月に多い

平署管内に於ける一月から六月までの變死數は男四十九人女二十二人、合計七十一人で特別すると倒死五、縊死二、轢死二一、壓死一四、窒息四、其他二三でこの中自殺者は四月に最も多し。

少年の惡事

平署に捕はる 岩手縣鹿角郡尾去澤村生れ當時住所不定無職赤坂幸一(二〇)は窃盜罪で起訴猶豫中のものであるが、同人は十六日夜一時頃湯本町字寶海雜貨店橋本初彌方店頭に忍び入り瓶酒其他數点を窃取した外十數軒に忍び入り現金其他二百餘圓を窃取し湯本町を徘徊中十八日午後五時頃平署署符刑事に捕はれた。

磐炭で石炭投賣

木曜會脱會

常磐の各炭礦では去る四月から一ヶ月の出炭高磐城は六萬八千噸、入山は三萬四千五百噸以下と、約二割の出炭の制限を行つてゐたが、昨今夏枯れ期に入り需要ますます減退し更に貯炭は減少せず有煙炭でも磐城九萬噸、入山一萬五千噸、古河一萬二千噸その他合計十五萬噸の貯炭を産し常磐第一の磐城炭礦では一ヶ月少くも五十萬圓の經費を要するところから、欠損つゞきで極度の金融難に陥るに至つた。然し今日までは關東北石炭販賣業者三井、三菱、古河、大倉、大日本、磐城の大炭礦から成つてゐる木曜會があつて炭價を協定してゐたが、前記の如き金融難に陥つたので去る十二日に開かれた木曜會に於て磐城炭礦は遂に脱會したので従來の炭價協定は破るゝに至り最近では粉炭の如きは一噸二圓内外といふ投賣りを開始したので各炭礦共大打撃を被つてゐる。

放尿中

海に轉落

石城郡江名町字藤町酒井辰藏所
有漁船進築丸乗組漁夫坂本佐吉
(二五)は十六日夕刻出船前骨休
めの焼酎をしたゝかに酔つて乗
船し舷に立つて放尿中腰の調子
がとれず誤つて海中に轉落した
ので直に救助せんとしたが見當
らず引續き附近の手をかり極力
搜索中である、溺死体は今に至
るも發見されない。

涼しい話

涙 芳 生

俺が暑い夕に、涼味たつぷりな避暑法を味はつた實驗談をお話し致しませうか、そんな事誰でもやるさうな事はないが、あるかも知れぬ、だが俺がやつたのと異ふかも知れぬ、同じだつたら許して戴きたいものだ。

田の草取りも隣の君ちやんの御手傳ひを受けたせいと思つたより早くをえた、取りわけ今夜は二十三夜様だから幾分早く仕舞へど母に言はれた通り早くをえた、だが随分つかれた、君ちやんをひやかしながら家に路に戻る、つかれたる目と風呂の煙だらう、これ程つかれをやすませる薬はない、家路間近くなれば茅葺から出る二三條の煙、白雲戴いた夏の夕空にかゝる、自分で作つた茄子を切り、ぐつたりとした体を縁側に横たへ煙草をふかした、つかれた時の煙草をれば實に美味なものである。生ぬるい風と共に庭隅にある紫蘇の葉の香がしきりに匂つてくる、いゝ香だ、蚊咬の奴俺のやせた腕にとまつた、血を吸ひだした、チリチリと馬鹿に暑い、外は埃でボコボコにかわき、つてゐる、太陽は西山にドンヨリとしてゐる、寝をべりながら煙草をふかしてゐた俺は暑さのためたまらなくなつた。

汗が背のすじから脇の下へとチリチリ流れる、その氣持の悪い事つたらない、汗でたまらなくなつた俺は、やにはに井戸端へと飛んで来た、なににきたつて知れた事さ、水を浴びるため種一つとなつた俺はバケツで六七杯水と言はず石といはずあたりかまわずやたらに水を浴びた。

忽ち涼風一過、俺はすがすがしい氣持を感じた………何處からともなくひぐらしが鳴き出した、何時のまにか隣の君ちやんが来てゐた、それもう一杯浴びては如何と俺をひやかす、さつきは遺恨返しから、西の空は真赤だ、子供が歌ふ夕やけの歌には貧乏もなにも忘れてしまふ、無じや氣さ。

お、涼しい、さうくたびれぬけた、涼風一過の涼しさで夕餉さしやう。都會の埃の中に生活してゐる諸君はこの涼味たつぷりな浴水法をおしへて上げると共に、夕食を分けて上げたが、ま、遠いから勘弁してくれ給へ(七、十二)

鳥料理

蒲焼

平町南町 電話四二四番

平町紺屋町

吉田眼科 電話六八番

高久病院

内科・外科・耳鼻科 咽喉科・花柳病科 院長 高久 忠 平町 電話一三五

驚いた!!!

こうまで安いとは 平・加納活版所の印刷物

耳鼻咽喉科

平町仲田町七一

新築 移轉 場所 合津醫院 電話五五九番

ツルヤ洋品店の

夏の子供服陳列會

イタツラ着 三十錢より
ポイル服 一圓四十錢
富士絹服 二圓より

御自由御覽になられる様店內に陳列
特に御勉め品霜降學生服

壹號 一圓十錢
貳號 一圓十錢
參號 九角十錢

目丁四平 〇四一電

社會奉仕

百毒下し 一、六萬金膏 半額
回効散 一、六神丸 半額
猫イラズ 一、字津救命丸 三割引
太田胃散 一、君ヶケ代 三割引
ヨチニウムチンキ

貧困者無料

施城橋風會 平町 田町
藥學博士 丹波敬三先生製藥指導
醫學博士 豊島豊次郎先生動物試驗

咳止の 妙藥

オピール錠

特約店 平町一丁目(電話四六二番) 大平屋藥店

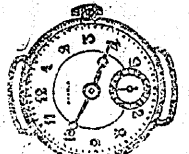
大衆向の實用腕時計



拾拾 拾拾 拾拾 拾拾
拾八金制型付 八金制型付
拾八金制型付 拾八金制型付
拾八金制型付 拾八金制型付
拾八金制型付 拾八金制型付

絶対他社の追従を許さぬ破額品!!

銀制拾貳型パリス拾石入
労働用に丈夫一式
特價 五圓九拾錢



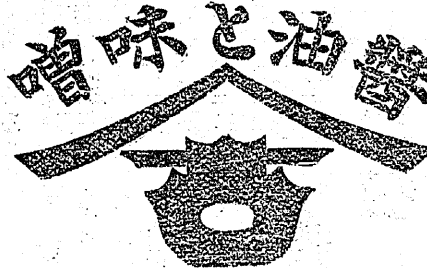
平町三丁目 電話一九番

大谷時計病院

養命酒

不思議な靈効を有する
まむしのエキス
半ヶ月分一・五〇
一ヶ月分二・〇〇
甘味にして頗る芳香飲み易し眞に補血強壯劑の高級品也

代理店 平町五丁目 角 山野邊藥局



山崎合名會社
東京支店
電話下谷五七二三番
電話東京六八三二二番

上野車坂四三三

花柳病科 専門

平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番